

# みなさんこんにちは! …新任医師の紹介をします…



なかはら ともこ  
**中原 智子** 32歳

【担当科】泌尿器科

【出身大学】宮崎大学

【趣味・特技】音楽鑑賞

【自己PR】4月から赴任して参りました。皆さんのお役に立てるよう、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 記念病院 理念 「人間愛」

### — 記念病院 基本方針 —

1. 患者様の人権と意思を尊重し、患者様の立場に立った医療の提供
2. 地域の中核的病院として、専門的且つ高度な医療を実践
3. チーム医療を推進し、より良い医療の希求
4. 豊かな人間性を備えた医療人の育成
5. 職員が意欲を持って働ける職場環境



## あとがき

夏といえば、例年なら旅行、お祭り、花火大会、海水浴、キャンプ、夏フェスなど様々な事をして楽しみに過ごしていたはずですが、

まさか、どこに行くにもマスクをして、街のあちこちにアルコール消毒液が設置される世の中になろうとは思っていませんでした。今となっては、外食する事だけでもイベントの一つになりつつあります。当たり前だった事が、当たり前でなくなつてから、何の気なしに普通の生活が送れていた事のありがたさを感じてきました。

皆さんは、コロナ禍の「おうち時間」をどのように過ごされていますか？

新型コロナウイルス感染症の拡大で「おうち時間」という言葉を頻りに耳にするようになりました。

外出自粛による「おうち時間」の増加で、せっかくならこの期間にしかできない事、好きな事、興味のある事をして、それをいかに充実させるかが世間でも注目されました。自宅でできる運動を始めたり、テイクアウトやデリバリーを活用して家族と食事を楽しんだり、友人とオンライン飲み会をしたり、新しい趣味を探したり、断捨離や家の片付けをするなど、家で過ごす時間を有意義にしたいと考えた人も多いようです。

私も、この状況が生活を見直すことや物の価値観を変えるきっかけになりました。また、今感じているストレスやコロナ疲れを解消するには、健康的な食事を摂る、適度な運動をする、睡眠時間を十分にとる、ゆつくり入浴をするなど、心や体に良いとされている生活習慣が毎日の暮らしを少しでも安心、快適に過ごすためにも大切な事なんだと再認識させられました。

新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、なかなか出掛けることも難しいかもしれません。

このような事態に心配や不安などネガティブな感情はありますが、平凡な日常の中に喜びや楽しみを見出して、なるべく明るく過ごしていきたいと思っています。いつかまた、今までのように安心して旅行に出掛けたり、キャンプでバーベキューをしたり、夏の夜空を彩る花火を近い場所で見上げたり、まつりえれこっちやみやぎきに出掛けられる日が一日でも早く訪れるよう七夕に願いを込めて…



# 大淀川

潤和会記念病院 副院長(外科) 佛坂 正幸



潤和会記念病院は大淀川のそばに建っています。病棟の廊下の東側のつきあたりの窓からは大淀川が臨めます。高層階では病室によっては、大淀川の流れを目にすることができます。大淀川は、もう少し河口付近、橋橋付近まで行くと、さらに川幅が広くなり、ゆったりと流れていく姿を眺めることができます。河川敷では、サッカー、野球、ゴルフなどのスポーツが楽しめます。夏には河川敷で花火大会があり、川を渡る仕掛け花火があり、川面に映る花火が楽しめます。私は通勤では川沿いを車で通ってくるため、朝に夕に川を眺めることができます。朝には、もやが立ち込めています。夕には高校生がカヌーやボートの練習をしている姿をみながら、家路につきます。時々、橋橋、小戸橋、一葉大橋あたりをウォーキングしています。川沿いの堤防を歩き、一葉大橋で向こう岸へ渡り、川沿いを歩き、天満橋を渡って帰ってくるとおよそ10km、などと橋を基準に大まかな距離を把握して、その日に歩く距離を決めています。川端康成は「大淀川は広いし、橋橋はきれいだ。これに夕日があれば宮崎の宝だ」と橋公園付近からの眺めを絶賛しています。

川端康成は「たまゆら」という言葉を使っていますが、この言葉は勾玉(まがたま)同士が触れ合って響く微かな音を意味し、「一瞬」「かすか」を意味する古語だそうです。でも、「たまゆら」という言葉は、大淀川の川面に反射した光がゆらゆらとゆらめく様子を連想させます。その大淀川は美しいと思います。橋橋から見える川面に映るホテル・マンションの灯り、西の夕日、いずれもとても印象的です。これほどまでの大きな川が、河口の近くで街に寄り添うように流れている都市は、九州ではあまり多くはないのではないのでしょうか。潤和会記念病院は過去に洪水で大きな被害を受けました。それを知らぬかのように、多少の大雨は意に介さず、悠々と流れていく大淀川の姿は圧倒的な存在感を示しています。

人にはそれぞれ原風景というものがあると思います。「原風景」とは、「ふるさとの風景」と言えるのかもしれませんが。こどものころ、通学の途中に見た、色づいた大きなイチヨウの木かもしれません。こどものころ家族で行った海水浴で見た青空の、

わずか一日の風景なのかもしれません。私は佐賀の田舎町で生まれました。町から周囲を見渡すと360度山が見え、町を出るには、峠を越えるか、山あいを抜けるかしかありませんでした。そんな盆地の温泉町で育った私の原風景は、間違いなく「山」でした。商店街の自宅の部屋から、建物越しに見える山に夕日が沈む風景は、いまだに目に焼き付いています。学生時代もそれ以降も、部屋を選ぶ際には、窓から山が見えることにこだわってきました。それぞれの土地の人が持つ「原風景」は、その人の気質や考え方に微妙な影響を与えていると思っています。例えば鹿児島は桜島、熊本は熊本城、都城は霧島でしょうか。その土地の人たちの持つ原風景はなんとなく、その土地に生きている人々を表しているような気がしてなりません。私の持つ原風景も、田舎町を離れて暮らす私を支えてくれました。

宮崎で生まれ育った方の中には、「原風景」として大淀川を挙げる方が、少なからずいらっしゃると思います。大淀川は過去に何度も洪水をおこし、潤和会記念病院にも少なからぬ被害をもたらしました。朝夕の通勤時には大淀川にかかる橋の上で渋滞をおこします。小戸橋が工事中は渋滞がひどくなりました。でも、宮崎の方は、こういったことは、「まあ、しょうがないなあ〜」と受け入れて生活されているのではないのでしょうか。その宮崎人の気質は、人に優しく、寛容であり、他県から来た人を広く受け入れてくれる包容力のあるものと思っています。関東や関西から定年後に宮崎に移り住む方が少なくないのは、温暖な気候のためだけではないと思います。宮崎に住む方のこのような気質は原風景である大淀川によって培われていると思えてなりません。

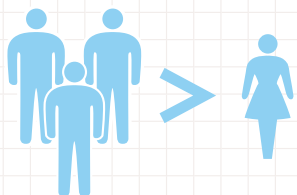




# 膀胱癌とは？

膀胱は尿をためる袋状の臓器です。膀胱内腔は移行上皮という粘膜で覆われており、その外側は筋層でおおわれています。  
膀胱癌は、粘膜より発生する癌です。  
膀胱癌の発生率は、性差があり、**男性は女性の3倍**、また**喫煙者は非喫煙者の2~3倍**といわれています。  
初診時、60~70%は粘膜内にとどまる表在性(筋層非浸潤性)ですが、筋層あるいは筋層外に進展(浸潤性)している場合や、リンパ節や他の臓器に転移している場合もあります。

男性は女性の  
**3倍**



喫煙者は非喫煙者の  
**2~3倍**



## 症状は

**無症候性の肉眼的血尿が重要**です。  
**膀胱刺激症状(排尿痛、頻尿、尿意切迫感など)**が認められる場合もあります。



## 診断検査は

### 尿検査

血尿や、尿中の癌細胞を調べます。

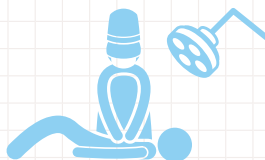


### 膀胱鏡

尿道より内視鏡を挿入します。癌を確認、観察することができます。

### CT・MRI

癌病変の筋層への浸潤や、膀胱外への進展、またリンパ節転移などを調べることができます。



## 治療は

### 手術療法

- 経尿道膀胱腫瘍切除術**・・・経尿道的操作により内視鏡に接続したループ状の電気メスで癌の基底部から切除します。癌だけでなく下の筋層まで切除し、病理組織診断で癌の深達度を明らかにすることもできます。
- 膀胱内注入療法(抗癌剤、BCG)**・・・内視鏡手術のあとの残存腫瘍および上皮内癌に対する直接効果、また、再発予防目的に投与されます。
- 膀胱全摘術**・・・浸潤性膀胱癌は内視鏡では完全に切除できないため、全身麻酔で行う膀胱全摘術が必要です。膀胱がなくなるため尿路変更術(回腸導管、代用膀胱など)も必要となります。手術中の出血量が多いため自分の血液を手術前に保存し輸血に備える方法(自己血輸血)がとられることもあります。

### その他の治療

- 放射線治療**・・・放射線を膀胱癌に照射し治療します。
- 化学療法(抗癌剤治療)**・・・転移がある場合や、その可能性が高い場合に行います。



# 最新機器の紹介



疾患者に重要な体水分や筋肉などの体水分モニタリングと部位別高精度分析。



## 高精度体組成計

### 「InBody(インボディ) S10」

高精度体組成計は、体水分量(細胞内・外)や部位別の筋肉量、体脂肪量を測定できる機械です。その他にも、タンパク質量や骨ミネラル量、基礎代謝量や栄養状態、浮腫の評価も行う事ができます。家庭用の体組成計との違いとして、四肢だけでなく体幹部まで通電した値から計算して算出するため、より精度の高い数値を計測する事ができます。その信頼性の高さより、日本でも医療機器認証(クラスII)を受けています。

握力や歩行速度等の運動機能評価と併せて、これを用いて測定することで、サルコペニア(骨格筋減少症)やフレイル(加齢による心身の衰え)、栄養状態を含めた全身の状態を、例えばこの筋肉が弱いかなど、正確に知る事ができます。カートでの移動もでき、臥位だけでなく座位や立位での計測も可能で、計測時間は2分程度で終わります。身体所見や体重測定だけでは分からないことや、侵襲のある検査でないと分からなかったことも、これを用いれば簡易的に評価することが可能です。  
測定結果を用いて、リハビリテーションの効果判定や、プログラム作成上の指針の一つとして活用しています。



## リハビリテーション支援ロボット

### 「ウェルウォーク WW-1000」

脳卒中などによる片麻痺の患者様に歩行の改善を目的としたリハビリテーション支援ロボット「ウェルウォークWW-1000」が2018年から導入されています。これは2017年にトヨタ自動車が開発し、全国で85施設、宮崎県では唯一当院にのみ導入されています(2021年5月時点)。

歩行訓練時に、麻痺側の足にロボットを装着することで、足の振り出しの補助、膝折れの防止など、必要最小限のサポートをロボットが行ってくれます。また、歩いた歩数や距離を画面上に表示することができ、歩く姿をあらゆる方向から撮影しているため、歩行中または休憩中に正面モニターで確認することもできます。歩行の状態は記録として残され、以前との比較も容易に可能です。



これらから、患者様自身が自分の状態を知ることで、より効果的な歩行練習を行うことができます。

重度の片麻痺の患者様であっても、転倒防止機能により安全性を確保して歩行練習を進めていく事ができ、かつ、機能回復に応じた適切な難易度の歩行練習が可能のため、患者様の自信と意欲の向上につながります。最新の研究でも、「歩行自立までの期間が従来の歩行練習よりも短くなる」という事が明らかになっております。また、今年の秋からは最新のWW-2000を導入する予定となっております。



上記以外にも、リハビリテーション療法部では様々な機器や手技の取り入れを積極的に行い、より良いリハビリテーションサービスの提供を目指しております。  
(両機器とも、全ての患者様が対象となる訳ではありません。使用できない場合もあります。)